PCT

国際調査報告



(法8条、法施行規則第40、41条) [PCT18条、PCT規則43、44]

出願人又は代理人今後の手続きについては、様式PCT/ISA/220の書類記号 PNT-9007WO及び下記5を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2005/002017 (日.月.年) 10.02.2005 優先日 (日.月.年) 16.02.2	004
出願人 (氏名又は名称) 農工大ティー・エル・オー株式会社	
国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条(PCT18条)の規定に従い出願人に送付するこの写しは国際事務局にも送付される。	る。
この国際調査報告は、全部で <u>2</u> ページである。 	
□ この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。 	
1. 国際調査報告の基礎 a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。 この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。	
b. □ この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでいる(第Ⅰ欄参照)。	٠.
2. □ 請求の範囲の一部の調査ができない(第Ⅱ欄参照)。	<i>"</i>
3. □ 発明の単一性が欠如している(第Ⅲ欄参照)。	
4. 発明の名称は 🗙 出願人が提出したものを承認する。	
□ 次に示すように国際調査機関が作成した。	
	- .
5. 要約は ※ 出願人が提出したものを承認する。	
第IV欄に示されているように、法施行規則第47条(PCT規則38.2(b))の規 国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1カ の国際調査機関に意見を提出することができる。	
6. 図面に関して a. 要約書とともに公表される図は、 第 4 図とする。 区 出願人が示したとおりである。	·
山願人は図を示さなかったので、国際調査機関が選択した。	
■ 本図は発明の特徴を一層よく表しているので、国際調査機関が選択した。	٠
b. □ 要約とともに公表される図はない。	İ

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))		
Int. Cl ⁷ G01N 30/00		
B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))		
Int. Cl ⁷ G01N 30/00 B01D 15/00		
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2005年 日本国登録実用新案公報 1994-2005年 日本国実用新案登録公報 1996-2005年		
国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)		
	*	
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の	関連する ときは、その関連する箇所の表示	
A JP 2001- 96104 A(学校法人関西学院 (ファミリーなし)	2001. 04. 10	
A JP 2002-249523 A(東洋紡績株式会社 (ファミリーなし)	1-4	
A JP 2002-273217 A(独立行政法人産業技術総合研究所)2002.09.24 1-4 & US 6797846 B		
C欄の続きにも文献が列挙されている。		
* 引用文献のカテゴリー 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明しては他の特別な理由を確立するために引用するもの「Y」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以文献(理由を付す) 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願「&」同一パテントファミリー文献		
国際調査を完了した日 08.03.2005 国際調査報告の発送日 22.3.2005		
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 特許庁審査官 (権限のある職員) 2 J 9 4		